

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



令和5年産米集荷結果

農業経営支援課 渡辺彰人

令和5年産は、食味が優れる一方で収量は昨年よりやや減少しました。高温による被害に悩まされ、早生の「コシヒカリ」だけでなく中生の「きぬむすめ」についても高温による心白粒や腹白粒が多く厳しい結果でした。また、カメムシによる着色米が非常に多く、早生から晩生まで全品種で問題となっています。

11月末時点の集荷量

1,283トン 目標対比85% (前年対比94%)

一等米比率

○コシヒカリ (早生)

30% (令和4年39%・令和3年51%)

○きぬむすめ (中生)

33% (令和4年42%・令和3年57%)

○あいちのかおり (晩生)

21% (令和4年42%・令和3年78%)

○全体

34% (令和4年45%・令和3年65%)

等級落ちの理由トップ3

1位:カメムシによる着色粒 47%

2位:心白粒・腹白粒 37% 3位:もみ混入 3%

対策のポイント

○カメムシ対策

近年多発している「イネカメムシ」による基部斑点米は、色彩選別機により取り除くことが難しいため、色彩選別機を利用する場合でも除草や農薬による防除を必ず行って下さい。

○心白粒・腹白粒対策

出穂〜登熟期にかけて、かけ流しかん水や間断かん水を行う事で高温障害による登熟不良を軽減できます。また、堆肥や土壌改良材の投入や秋耕による土づくりによって根張りを良くすることで登熟向上が期待できます。